

## 第三者意見



神戸大学大学院  
経営学研究科教授  
國部 克彦 氏

### 長期的な環境ビジョン

豊田合成は「TG2050環境チャレンジ」を発表し、超長期ビジョンを持った環境経営に取り組んでいます。これはトヨタグループに共通する活動でもあります。豊田合成は環境教育や人材育成にも重点をおくなど、独自の特徴ある取り組みも進めています。2020年度までの「第6次環境取り組みプラン」についても、細かく目標を設定して実行を管理しており、これらの体制の整備と活動は高く評価することができます。今後は、2020年以降に活動をどのように進めるのかについて、具体的なプランを策定することが鍵になると思います。プランの策定にあたっては、2030年あるいは2050年に会社を担うであろう若い人材の積極的な関与が不可欠です。若い人材が今後のプランの構築と活動をリードできる体制づくりが重要な課題になります。それが社内での環境意識の啓発にもつながるはずです。

### 環境保全活動の積極的な展開

豊田合成は上記のような長期ビジョン策定の面で優れているだけでなく、個別の環境保全活動においても、活動範囲の広さと深さを備えた効果的な活動をしています。情報開示の内容も丁寧で、詳しい説明がなされています。低炭素社会の構築や循環型社会の構築に関しては、目標管理を着実に進めるだけでなく、豊富な事例を列挙していることは、他社にも参考になるもので、社会全体での環境負荷の削減にも貢献することでしょう。これらの活動はおそらく環境面だけでなく、コスト面でも効果があると思いますので、経済効果を意識した環境保全活動の推進を図ることも重要な戦略になると考えます。環境保全を有効に展開するためには、予算の裏付けが不可欠で、投資に対する効果が理解されて初めて、活動が継続します。そのような好循環をぜひ作り上げてほしいと期待します。また、工場の森づくりなど、地域とつなぐ自然保全活動の推進は、

地域の社会的価値を高める重要な活動ですので、一層充実されることを希望します。

### サプライチェーンでの環境取り組み

豊田合成はサプライヤーとの関わりを重視して環境保全活動に取り組んでいます。グリーン調達を推進をはじめとして、功績のあったサプライヤーを表彰したり、サプライヤー向けセミナーを開催したりして、積極的な活動を展開しています。サプライヤーと協力して環境保全を推進していくことは、国際的に見ても環境経営において最も重要な活動ですので、このような活動は高く評価できます。今後は、海外のサプライヤーも含めて、サプライヤーとの協働をより積極的に進めるための仕組み作りを進められるとともに、サプライヤーとの具体的な協働の事例なども開示できれば、多くの企業に参考になると思います。また、将来的には、スコープ3でのCO<sub>2</sub>の具体的な削減にも結びつけてほしいと思います。

### 世界標準への挑戦

豊田合成の環境保全活動のレベルは非常に高いものがありますが、今後豊田合成レポートを世界標準に高めていくためには、いくつか課題もあります。まず、環境の活動と社会の活動が目標なども別々に記載されていますが、サステナビリティ活動もしくはCSR活動ということで一体化して運営した方が良いでしょう。そのためにはGRIスタンダード<sup>\*1</sup>を参考にすることも一つの有効な方法です。スタンダードを参考に、社会環境活動の優先順位を決めるマテリアリティ分析や、環境や社会活動のKPI化も検討されると良いと思います。現在も多くの指標があるわけですが、その中でも代表的な指標を選んで、財務的なKPIと並ぶ非財務KPIとして位置づけて、そのもとに他の指標群を配置すればより一貫した体系的なマネジメントが遂行できると思います。優先順位の決定には、2015年に国連で採択された「持続可能な開発目標(SDGs<sup>\*2</sup>)」も参考になると思います。SDGsの17の目標と169のターゲットと豊田合成の社会環境活動を比較すれば、多くの接点が見つかるはずです。それを一つの切り口にして、さらに活動を展開してほしいと期待しています。

<sup>\*1</sup> グローバル・レポーティング・イニシアチブ(GRI)が作成したサステナビリティ報告の作成基準。サステナビリティ報告に関して、国際的に最も普及している

<sup>\*2</sup> 世界的なレベルで持続可能な社会をつくることを目指し、国連が2015年に採択した目標。2030年までに、17の目標と169のターゲットを設定している